

ステークホルダーの 皆様からの信頼に応える 企業グループをめざします

東武鉄道株式会社
取締役社長

根津 嘉澄



【はじめに】

今日、企業が永続的に発展・成長するためには「企業の社会的責任（CSR）」という視点が欠かせなくなり、社会との共生が求められております。また、地球温暖化防止や持続可能な循環型社会の構築など、環境保全は国境を超えた人類共通の課題となっております。

これらを踏まえて、当社における社会とのかかわりと環境配慮の取り組みについて、本報告書で紹介させていただきます。

東武鉄道を含む東武グループは、鉄道事業を中心に、「運輸」「レジャー」「不動産」「流通」などの各部門において、沿線地域等の皆様と長年にわたる信頼関係を構築し、各種事業のサービスを展開していくことで社会に貢献するという理念・方針のもとに、企業の社会的責任を果たしてまいりました。

【社会とのかかわり】

社会とのかかわりにつきましては、鉄道事業においては「安全」を軸に、安心・便利で快適なサービスを提供することを社会的使命と考え、相互乗り入れによるシームレスなネットワークの構築と所要時間の短縮、バリアフリー化の推進、事故防止のための設備の充実などに努めるとともに、お客様や沿線にお住まいの皆様が鉄道を安全にご利用いただくための啓発活動を広く行っております。また、外国人旅行者に向けた観光キャンペーンの実施やSL復活運転への挑戦など、沿線自治体その他協力会社のご支援をいただきながら、沿線の魅力の発信に注力しております。

開発事業および東武グループ各社の事業においても、その多くが沿線地域にお住まいの皆様の日常生活をサポートすることを目的としておりますので、各事業およびグループ各社が本業を誠実に遂行していくことが、東武グループのCSRの中核をなすものと考えております。

【環境配慮の取り組み】

環境配慮の取り組みにつきましては、鉄道事業においては、マイカー等と比較するとエネルギー効率が高いという鉄

道の環境優位性を活かすべく、身近な環境対策として鉄道利用を促すことにより、社会全体の環境負荷低減への寄与をめざしております。

一方で、鉄道は環境にやさしい輸送手段であるとはいえ、多くの電力を消費することも事実であり、安全対策やバリアフリー化での機器増設などエネルギー消費量の増加が見込まれる側面もあるため、環境負荷低減策として省エネルギー性能に優れた車両の導入などの施策に取り組むなど、CO₂排出量の削減に努めております。

開発事業においては、「ソライエ清水公園アーバンパークタウン」の戸建分譲や「ソライエ船橋塚田」「ソライエ若葉」ほかのマンション分譲などにおいて、積極的に緑を取り入れるなど環境に配慮した取り組みを進めております。

グループ事業においては、本年稼働を開始した高柳（千葉県柏市）を含む8か所で大規模太陽光発電事業を展開し低炭素化の促進を図るなど、地球温暖化防止をはじめ、持続可能な社会の構築に貢献するよう、グループを挙げて環境保全への取り組みを推進しております。

【東京スカイツリータウン®】

「東京スカイツリータウン」は、来年5月で5周年を迎えます。「東京スカイツリー®」は電波塔として、鉄道と同様に重要な社会インフラ機能を有していることから、その役割を50年、100年と守り続けていくことが東武グループの使命と考えております。また、技術面においては東武エネルギー・マネジメントが運営する「東京スカイツリー地区熱供給施設」が、東京都環境確保条例における「トップレベル事業所」に認定されるなど、東京スカイツリータウン全体で優れた環境保全への取り組みを推進しております。今後も、これまで以上に環境面での運用改善を図りつつ、東武沿線全域の活性化、ひいては観光立国日本の世界的名所として、日本全体の活性化に貢献できるよう努めてまいります。

本報告書の発行を通じ、情報を積極的に開示することでステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに努めたく、忌憚のないご意見・ご感想をいただければ幸いに存じます。